

III 症状ごとの対応

# 5. せき・ぜんそくするとき

せきは、気管や気管支に侵入するウイルスや細菌、異物などを排除するための反応であり、苦しみのないせきは心配ありません。

あわてずに、まずお子さんの様子をよく観察することが大切です。



## ＋ すぐ受診した方がよいとき

3ページに記した症状があり、さらに以下の症状がある。

- せきがひどく眠れない。顔色が悪い。
- ゼーゼーしている。  
(背中に耳をつけるとヒューヒュー音がする。)
- ケンケンと犬がほえるようなせきをする。
- 肩で息をしており、呼吸が早い。  
(赤ちゃんで1分間に60回以上は大至急)
- 全身で息をしていて、胸の上下がはげしい。



## 家庭での対処方法

- 湿度を保つ。むせないように水分をあげる。

加湿器を使ったり、濡れタオルを干して部屋を加湿したり、口元に蒸しタオルなどをあててください(ただし、窒息しないように口そのものは覆わないように注意しましょう)。



- 部屋の空気をきれいに。

ホコリ、タバコ、線香のけむりなどはせきをひどくします。空気を入れ換え常に新鮮な空気を。

- ぜんそくの薬があらかじめ用意されていれば、医師の指示通りに使う。

ぜんそくの薬は、医師の指示どおり使ってください。



- ぜんそくは、日々の治療・管理が大切です。環境整備も含めて、日頃から主治医と相談しておきましょう。